

事業群評価調書(令和元年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主管所属	教育庁義務教育課
施策名	(4) 我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成	課(室)長名	木村 国広
事業群名	① ふるさとを愛し、我が国と郷土長崎に誇りを持つ子どもの育成	事業群関係課(室)	高校教育課、生涯学習課
	④ 子どもたちが直接自然と触れ合う体験活動や農山漁村での交流体験の推進		

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文)						(取組項目)				
<p>①我が国と郷土に誇りを持ち、明るく活力ある地域社会の実現を目指し、我が国と郷土の歴史や伝統文化についての理解を深め、次の世代へ確実に継承しようとする態度を育みます。また、本県の特徴である「しま」の特性を活かした体験活動を通じてふるさと長崎県の再認識を図る取組を推進します。</p> <p>④子どもたちの豊かな人間性や社会性を養うため、自然と直接触れ合う体験をはじめ、農林漁業体験、異年齢の子どもや地域の人々との交流など学校内外の体験活動の機会を充実させるとともに社会的課題に対応した体験活動を推進します。</p>						<p>i)教科や総合的な学習の時間等における郷土を理解する教育の推進(事業群①)</p> <p>ii)我が国や郷土の伝統・文化に関する学習の充実(事業群①)</p> <p>iii)「しま」のよさを活かした体験活動や地域の人々との交流など学校内外での体験活動を通じたふるさと長崎県の再認識の促進(事業群①④)</p>				
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析)
	①郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)	目標値①	/	90%	95%	100%	100%維持	100%維持	100%維持(R2)	
		実績値②	79.6%(H26)	81.8%	82.3%	83.5%	/	/	進捗状況	
		②/①(達成率)	/	90%	86%	83%	/	/	やや遅れ	
	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	
	④自然体験活動に取り組んでいる小・中学校の割合	目標値①	/	80%	85%	90%	95%	100%	100%(R2)	
実績値②		79.3%(H26)	82.6%	82.6%	83.4%	/	/	進捗状況		
②/①(達成率)		/	103%	97%	92%	/	/	やや遅れ		

2. 平成30年度取組実績(令和元年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 平成30年度事業の実施状況 (令和元年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)				平成30年度事業の成果等	中核事業	
				H29実績	うち一般財源	人件費(参考)			指標	主な目標	H29目標	H29実績			達成率
				H30実績							H30目標	H30実績			
				R元計画							R元目標	R元実績			
1	取組項目 i	郷土学習資料作成事業 義務教育課	H15-	2,753	2,753	2,414	公立中学校1年生及び特別支援学校中学校部1年生 平成31年度版「ふるさと長崎県」を作成し、県内各学校や関係機関に配布した。 30年度版からの主な改訂内容は、「ふるさと長崎県を活用した学習例」「カズオ・イシグロさんについて」「『しま』は長崎県の宝!! シリーズ2～対馬市～」親子で挑戦!!<ながさきっ子クイズ>」を新規に掲載し、全編にわたり数値等の修正を行った。	活動指標 作成配付部数(冊)			14,000	14,750	105%	●事業の成果 ・社会科や総合的な学習の時間で資料として活用したり、朝読書の時間に読み物として読まれたりするなど各学校での活用が図られたことにより、目標値にはとどかなかったが、実績値の向上につながった。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与・目標値を下回っているものの、指標実績値は上昇し、郷土への理解と愛情の高まりに寄与している。	
				2,985	1,492	2,392			14,250	14,100	98%				
				3,979	3,979	2,392			14,000	/	/				
							成果指標 郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)(%)	95	82.3	86%					
								100	83.5	83%					
								100	/	/					

2	取組項目 ii	長崎発 未来の創り手育成プラン(再掲)	H30-R2				高校生	県立高校6校を研究指定し、専門家や地元市町の協力を得ながら、地域活性化に向けた取組等を行った。	活動指標	県立高校(全日制)における「ふるさと教育年間指導計画・体系図」を作成している学校数(校)	6	6	100%	●事業の成果 ・「ふるさと教育」研究指定校6校すべてで地元の行政機関や事業所などと連携し、地域住民や保護者等に向けた実践研究発表会を行った。			
		高校教育課		1,253	627	3,986			成果指標	指定校において将来ふるさとへの発展に貢献したいという意識が高まった生徒の割合(%)	12	85%以上	90.3		100%		
3	取組項目 iii	「しま」体験活動支援事業費	H23-				公立小・中学校	平成30年度は、長崎市、大村市、波佐見町の小・中学校や県立中学校の児童生徒865人が本事業により体験活動を実施した。活動先は、壱岐市、五島市の2市である。また、しまの魅力を広く伝えるため、実施校から聞き取った活動内容をまとめ、各学校や旅行者等に情報提供を行った。	活動指標	各市町教育委員会に対する説明(回)	3	3	100%	●事業の成果 ・長崎県に生まれながら、「しま」を知らずに県外へ進学・就職していく子どもも多い。参加した865人の96.6%がもう一度島を訪れたいと思うなど、成果をあげることができた。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・自然やしまの人とふれあいを通じて、しまの魅力を体感することができたため、目標値の達成につながった。			
		義務教育課		485	485	1,609			成果指標	島をもう一度訪れたいと思った参加者(%)	4	4	100%		95%以上	97.3	100%
				603	603	1,594			95%以上	96.6	100%						
4	取組項目 iii	しまの魅力に出会う日本の宝「しま」交流支援事業	H27-R元				小学4年～中学3年の児童生徒	実施市に対し、県が企画段階からかわりながら助言等を行い、3泊4日の体験活動を行った。また、国境離島の重要性についての理解を深める教育プログラムを実施した。さらに、すべての子どもに体験の機会を提供できるよう、就学支援世帯の参加者に対して参加費の補助を行った。	活動指標	参加者数(人)	220	209	95%	●事業の成果 ・「しま」ならではの体験活動を実施したことにより、「この島をもう一度訪れたい」と思う参加者の割合は、アンケートの結果から92.7%と高く、目標を達成した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・海での活動や民泊体験に加え、地元の産業を体験することで、参加者の95%以上が高い評価をしており、ふるさとを愛する心の育成につながった。			
		生涯学習課		5,197	3,043	7,241			成果指標	この島をもう一度訪れたいと思った参加者(%)	120	130	108%		90%以上	95.6	100%
				2,116	1,343	8,769			90%以上	92.7	100%						
		2,203	1,414	8,770	90%以上												

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 教科や総合的な学習の時間等における郷土を理解する教育の推進(事業群①)

これまでのふるさとのよさを学ぶというふるさと教育から、人口減少や環境保全、地域創生という地域が抱える課題に対して、子どもたちが自分たちの力で解決を図ろうとする未来を創るふるさと教育を推進し、郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の育成を推進していく。

ii) 我が国や郷土の伝統・文化に関する学習の充実(事業群①)

我が国や郷土の伝統・文化に関する学習については、学習指導要領でも求められているところであり、グローバル化が進むこれからの世の中であるからこそ、その基盤となる資質を養うものである。総合的な学習の時間に取り扱う伝統芸能のみならず、様々な教科等の中で横断的・総合的に展開する必要がある。各学校において、年間指導計画の配列等を工夫するための指導を展開していく必要がある。

iii) 「しま」のよさを活かした体験活動や地域の人々との交流など学校内外での体験活動を通じたふるさと長崎県の再認識の促進(事業群①④)

本県の特徴である「しま」ならではの体験活動を通して、ふるさと長崎県のよさを再認識することができた。また、参加者同士だけでなく、地元の方や高校生・大学生との交流を通して、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。

「しま」の自然や歴史、産業などを活用した体験に加え、離島についての理解を深めるプログラムを行ったが、一部専門的な用語を用いた講義があり、参加した小学生にとっては難解な部分があったため、今後より理解しやすい内容への改善が必要である。

4. 令和元年度見直し内容及び令和2年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	令和元年度事業の実施にあたり見直した内容 (令和元年度の新たな取組は「R元新規」等と記載、見直しが無い場合は「－」と記載)	令和2年度事業の実施に向けた方向性		
				事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目 i	郷土学習資料作成事業	—	②	子どもたちの郷土長崎に対する理解と愛情を深めるため、本学習資料の果たす役割は大変大きい。今後も、引き続き内容の充実を図りながら、本学習資料の継続的な活用を行い、子どもたちの郷土長崎に対する愛情を深めていく。	改善
2	取組項目 ii	長崎発 未来の創り手育成プラン(再掲)	—	—	令和3年度までに全県立学校がふるさと教育について体系図と年間指導計画を策定できるよう、研究指定校の成果を周知していく。	現状維持
3	取組項目 iii	「しま」体験活動支援事業費	—	②	本事業は平成23年度から展開されており、平成30年度までに6,806人の児童生徒が、しま部での体験活動を行った。参加した児童生徒の多くが、日常生活では味わえない体験に感動を覚え、「しま」の良さを感得している。 令和2年度においては、参加児童生徒数を増やすため、引き続き市町と協力し、活動の意義や具体的な実施方法の周知を引き続き丁寧に行うとともに、保護者に対する情報発信に努め、実施校を増やしていく。	改善
4		しまの魅力に出会う日本の宝「しま」交流支援事業	—	—	参加者と地元の子どもや住民との交流を図り、ふるさとを愛する心を育成するという一定の目的を達成したので、本事業を終了する。	終了

注:「2. 平成30年度取組実績」に記載している事業のうち、平成30年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改正要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点